

平成11年度

環境報告書



平成12年6月

名古屋鉄道株式会社
「アクション・エコ推進委員会」

ごあいさつ

地球環境問題は、時間・空間を超えた最も重要な問題であり、個人から企業まで例外なく取り組まねばならない問題です。

当社は環境にやさしいといわれる鉄道・バスを中心に事業を展開していますが、事業活動すること自体が何らかの形で環境に負荷をかけており、積極的かつ継続的に環境対策に取り組まなければならないと考えております。

このような認識のもと、1998年4月環境対策への行動計画として「名鉄エコ・ビジョン」を策定し、より具体的でより強力で推進していく組織として「アクション・エコ推進委員会」が設立されたわけであります。

当社の環境への取り組みの始まりは、節約運動や省エネルギーに関する各委員会を含めると、戦後まもない頃までさかのぼることになります。

ただ、それらの活動は、会社の経費節約といった視点が中心であった訳で、最近の環境への考え方とは大きく異なっていたと思います。

会社のためだけでなく、地球環境のために、「この電気を」、「この紙を」、「この水を」節約する。そうした気持ちから環境が守られるとしたらすばらしいことだと思えます。

この報告書も一つ一つの積み重ねの結果として、今年はじめにまとめさせていただきました。まだまだ充分ではないと思いますが、今後も鉄道・バスを一層環境にやさしいものとし、より便利にしていくことが当社の最大の責務であることを再認識し、継続的に努力してまいります。

当社の環境に対する取り組みについてご理解いただければ幸いに存じます。

名古屋鉄道株式会社
「アクション・エコ推進委員会」
委員長

鈴木英介

目次

環境への取り組み体制について	1
1 名鉄エコ・ビジョンの基本理念	
2 名鉄エコ・ビジョンの行動目標	
3 名鉄エコ・ビジョンの行動指針	
4 推進体制	
具体的な取り組みについて	3
1 地球温暖化防止・省エネルギーへの取り組み	3
1-1 鉄道事業における取り組み	
1-2 バス事業における取り組み	
1-3 駐車場事業における取り組み	
1-4 その他の省エネルギーへの取り組み	
2 廃棄物削減と管理.....	10
2-1 廃棄物の現状(数量と処理・管理方法)	
2-2 廃棄物削減対策	
3 環境汚染物質	14
3-1 オゾン層破壊物質	
3-2 PCB	
3-3 ダイオキシン類	
3-4 その他	
4 自然環境保全	15
5 鉄道の騒音対策	16
5-1 きしり音低減策	
5-2 転動音低減策	
6 環境管理体制	16
7 啓蒙活動	17
7-1 社外への環境啓蒙活動	
7-2 従業員への環境啓蒙活動	
今後の取り組みについて	19

環境への取り組み体制について

1 名鉄エコ・ビジョンの基本理念

名鉄は、環境問題を地球規模で考え、
地域・個人レベルで行動し、
環境に優しい企業をめざします。

より効率的でより利便性の高い公共交通サービスを提供することが、名鉄の最大の責務であることを再認識し、輸送事業を初めとするさまざまな事業活動および社員行動のあらゆる面で、地域の皆様とともに、環境の保全と向上のために組織的・継続的に行動していきます。

2 名鉄エコ・ビジョンの行動目標

省エネルギー・リサイクル・省資源などの目標を掲げ、CO₂削減目標を実現します。

オゾン層破壊物質を早期に回収、撤廃します。

技術部門を候補にISO14001の認証取得をめざします。

モデル駅などを設定し、地球にも人にもやさしい施設づくりを推進します。

各方面の関係機関と協力し、公共交通の利便性の向上をめざします。

3 名鉄エコ・ビジョンの行動指針

環境対応技術の積極的導入

鉄道事業では、切符のリサイクル、車両の省エネ・軽量化、冷房における代替フロン等の導入を一層推進していきます。

バス事業では、ハイブリッドバスなどの低燃費バスの導入や停車中のエンジンカットなどを推進します。

レールやまくら木、コンクリート材、タイヤなどの使用済み品のリサイクル率を向上させます。

100%再生紙の導入や太陽エネルギーを利用した施設、省エネタイプの機器、備品、再生しやすいように配慮された製品などを、ある程度のコスト増は環境改善コストとして認識し積極的に導入します。

輸送体系の整備

鉄道・バスなどは、大量輸送を実現してこそ環境負荷を低減できるという考えのもと、今後もより効率的で利便性の高いサービスの提供に努めます。

そのためには、独自の活動はもとより、周辺自治体や他の輸送会社、並びに輸送手段との連携を強化し、「移動の改善」「輸送体系の整備」を重視した活動を展開していきます。

環境保全意識の向上と地域環境貢献

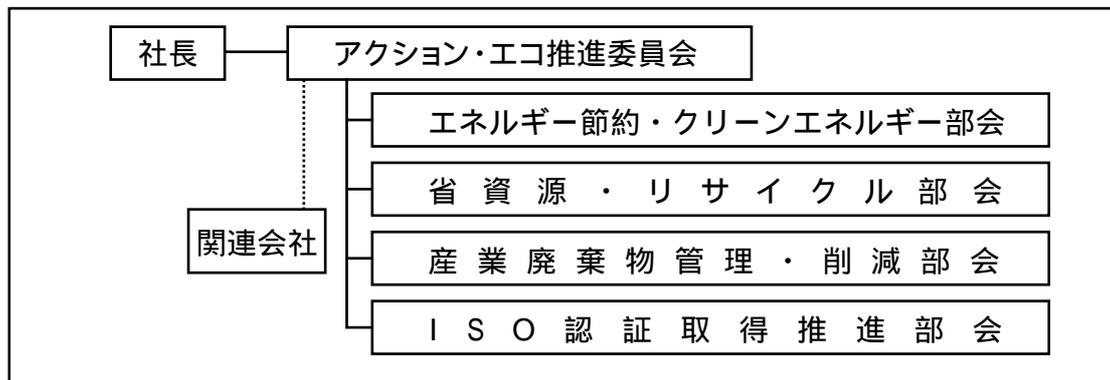
社員への啓蒙活動を継続し、環境への高い意識を持つ企業体をめざします。

環境負荷に対する的確な情報を常に吸収し、理解を深める努力を続けていきます。

こうした活動を地域へ広げることも必要と考え、環境配慮型イベントなどを開催し、地域の環境保全意識の向上を支援していきます。

4 推進体制

全社的な取組み体制として「アクション・エコ推進委員会」を設立し、4つの部会で具体的な対策を検討しています。事務局は経営企画部に設置。



エネルギー節約・クリーンエネルギー部会

事業の推進に供するエネルギーの節約と代替エネルギー等を研究し、環境改善を推進する。

省資源・リサイクル部会

さまざまな企業活動において、資源のリデュース、リサイクルの推進、従業員の意識改革をめざし、環境改善を推進する。事務所からの産業廃棄物も検討する。

産業廃棄物管理・削減部会

騒音や振動の対策、産業廃棄物である廃車や工事発生品などの処理や削減のため対策を研究し、環境改善を推進する。

ISO認証取得推進部会

ISO認証取得をめざし、環境対策の高度化と意識改革を図る。

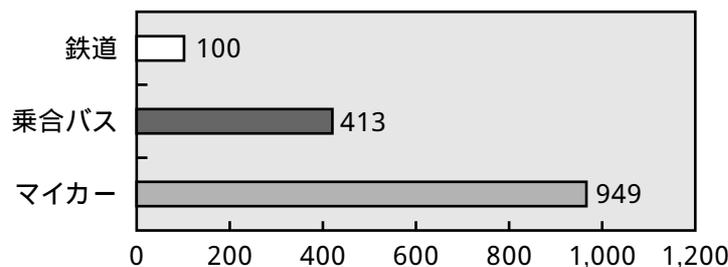
具体的な取り組みについて

1 地球温暖化防止・省エネルギーへの取り組み

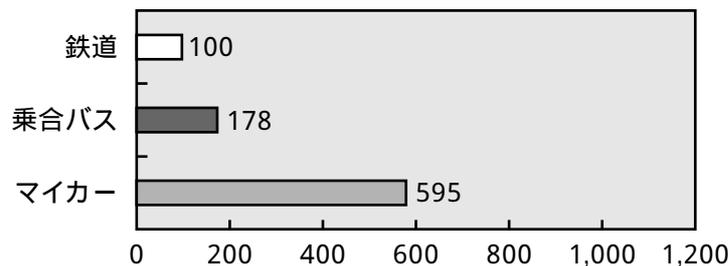
地球温暖化は砂漠地域の拡大、海岸線の後退、異常気象などで地球規模で問題になっています。

鉄道やバスはエネルギー効率がよく、環境にやさしいといわれていますが、地球温暖化の主な原因である二酸化炭素(CO₂)を少なからず排出しており、エネルギー効率を継続して向上させていく必要があります。(図参照)

事業活動によって環境に負荷をかけていることを自覚し、エネルギー効率向上に努力してまいります。



輸送機関別 CO₂発生量比較(鉄道=100とする)
運輸省「運輸白書」(平成10年度版)より

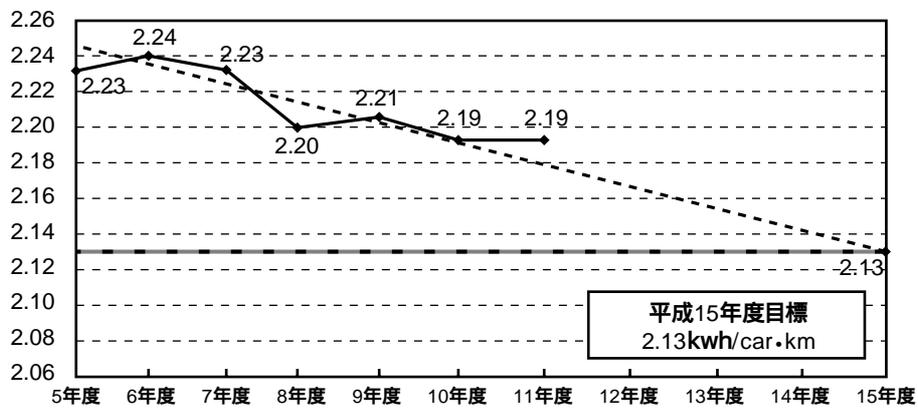


輸送機関別 使用エネルギー比較(鉄道=100とする)
環境庁「環境白書」(平成10年版)より

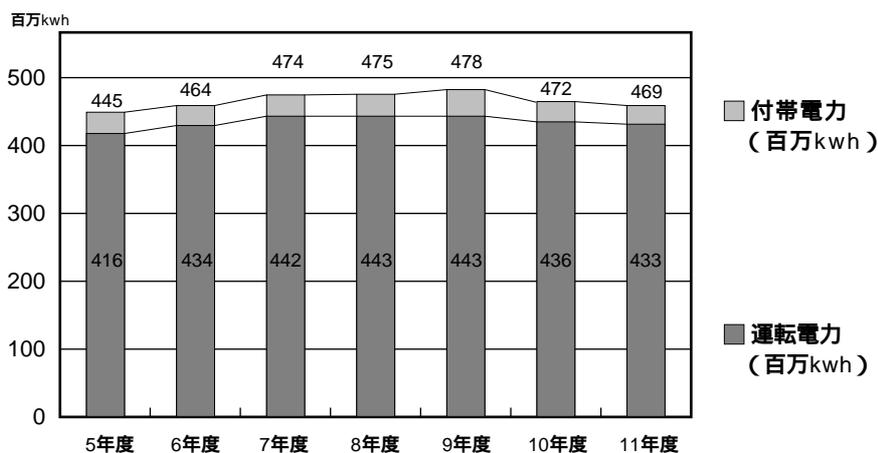
1-1 鉄道事業における取り組み

鉄道部門では以下の目標を達成するために車両の省エネルギー化や電気設備の改良を図りエネルギー効率化に取り組んでいます。

目 標
 平成15年度の電車のエネルギー原単位を
 平成10年度比3%減(2.13kwh/car・km)とする
 電車1両が1km走行するのに要する電力量



電車1両が1km走行するのに要する電力量の推移



運転・駅関連電力使用量の推移

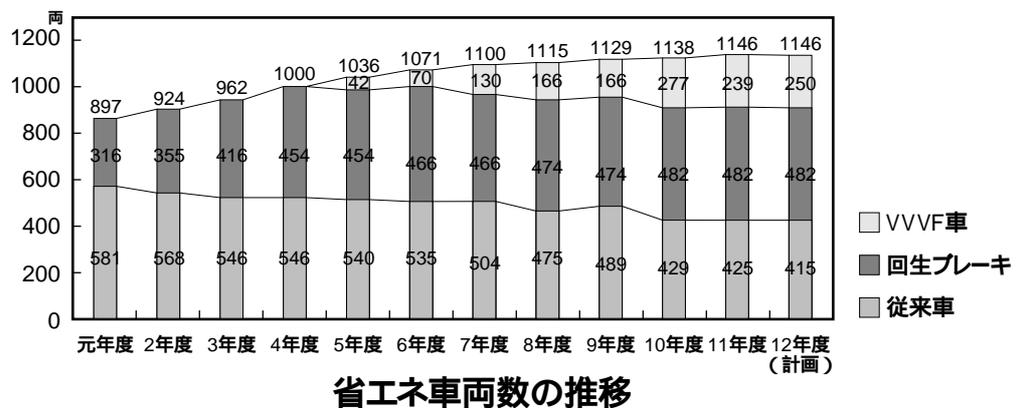
付帯電力: 駅の照明や駅務機器に使用する電力

(1) 車両の省エネルギー化

鉄道事業では、省エネルギー化のため、VVVF車両や回生ブレーキ車両などのエネルギー効率のよい車両を順次導入していきます。

平成11年度実績で省エネ車両は721両(VVVF車両:239両、回生ブレーキ車両:482両)で全体の63%となっています。(図・表参照)

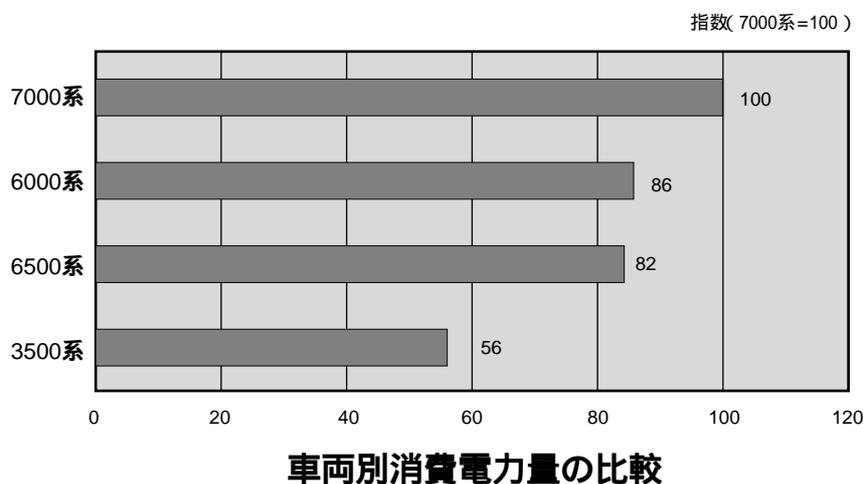
ちなみに、省エネ車両と従来型車両の消費電力量を比較すると、最新型省エネ車両(3500系)は従来型車両(パノラマカー7000系)の約56%となっています。(図参照)



省エネ車両割合の推移(%)

	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度(計画)
VVVF車					4	7	12	15	15	20	21	22%
回生ブレーキ車	35	39	43	45	44	43	42	43	42	42	42	42%
従来車	65	61	57	55	52	46	46	42	43	38	37	36%

- 気動車を除く
 * V V V F 車・・・3500系、780系など
 * 回生ブレーキ車・・・6500系、6800系など
 * 従 来 車・・・回生ブレーキのない車両(6000系7000系など)



(2)電力施設の省エネルギー化

力率改善コンデンサー設置

変電所ではエネルギー効率を向上させるため、力率改善コンデンサーの設置を平成6年から進めており、現在38変電所中9変電所で使用しています。(詳細は下表参照)

力率改善コンデンサー：変電所内で電力の無駄をなくするための装置

力率改善コンデンサー導入実績

変電所	導入時期	導入前の力率(%)	導入後の力率(%)	改善度
新一宮	平成6年	96.9	100.0	+3.1
枇杷島	平成7年	96.9	100.0	+3.1
須ヶ口	"	97.7	99.6	+1.9
犬山	"	96.1	99.6	+3.5
堀田	"	96.6	100.0	+3.4
棕岡	"	95.8	100.0	+4.2
有松	平成8年	97.1	99.9	+2.8
矢作	"	96.1	100.0	+3.9
国府	"	97.2	99.9	+2.7

き電線の強化

電力損失の低減化を図るため、き電線の強化を進めています。

平成11年度末で鉄道全線501km中332kmで強化済みであります。

平成12年度は豊川線国府～八幡間(1.3km)、河和線南成岩～知多武豊間(0.9km)、尾西線上丸淵～玉野間(2.8km)及び、2箇所の変電所などで、き電線の強化を実施する予定です。

き電線：電車に電気を送るための電線

(3)その他

電車関連の電力を節減するため、電力委員会を設置し、ダイヤの特性の理解を通して無駄な加速をなくすなどの電力節減活動を継続的に行なっています。

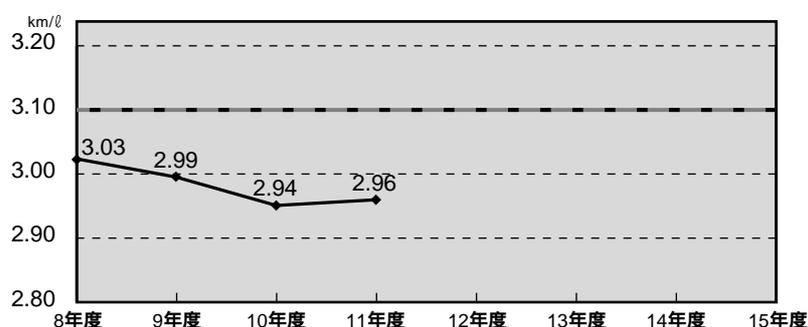
1-2 バス事業における取り組み

バス事業では、車両の省エネルギー化や燃料節約運動によりエネルギー効率の向上に努力しております。当社では平成11年度の燃費目標を1リットル当たり3.1kmと設定して省エネルギーに努力してきましたが、残念ながら目標達成は出来ませんでした。

この要因の分析を進め、出来るだけ早い時期に目標達成できるように、今後も新技術の導入や燃料節約活動の強化を続けてまいります。

目 標

平成15年度までにバスの燃費を1リットル当たり3.1km以上とする



バス燃費の推移

(1) 車両の省エネルギー化

バス事業では、燃費向上のため、停車時にエンジンカットを自動的に実施するアイドリングストップバスを導入したり、需要の比較的少ない路線には小型バスに切り換えたりしております。

アイドリングストップバス・小型バス導入の推移(台、%)

	9年度	10年度	11年度	12年度	
				(計画)	構成比
大型バス(従来型)	798	811	767	759	94.6%
アイドリングストップバス	0	0	17	34	4.2%
(うち大型)			5	10	
(うち小型)			12	24	
上記以外の小型バス	8	8	10	10	1.2%
合計車両数	806	819	794	803	100%

(2) その他

自動車事業本部に燃料節約委員会を設置し、アイドリングストップ推進運動を実施しており、起終点の停留所等においてエンジンカットを行い、エネルギーの節減に努めています。

1-3 駐車場事業における取り組み

鉄道の利用を促進することが最終的に温暖化防止に結びつくと考え、駐車場を整備してパーク&ライドを積極的に推進しています。

沿線駅の約50カ所で、約6,000台分のパーク&ライド駐車場を整備しているほか、月極の駐車場も約11,000台分を整備しています。(表参照)

マイカーだけで移動するより、電車とマイカーを組み合わせるパーク&ライドの方がCO₂発生量が少なく、環境にやさしいといえます。

パーク&ライド駐車場(平成12年3月末現在)

名古屋本線	新一宮駅	600台
	神宮前駅	1,000台
	東岡崎駅	400台
	豊橋駅	270台
犬山線	犬山駅	740台
	岩倉駅	200台
小牧線	小牧駅	200台
三河線	刈谷駅	400台
河和線	阿久比駅	250台
その他		1,940台
合 計		6,000台

平成12年度整備予定の駐車場

名古屋本線	新岐阜駅	350台
	金山駅	140台
	新安城駅	65台
	宇頭駅	35台
尾西線	奥町駅	26台
その他		25台
合 計		641台

1-4 その他の省エネルギーへの取り組み

(1) 太陽熱温水器の導入

当社ではエネルギー節減のため、車両検車場において太陽熱温水器を導入しており、自然エネルギーを従業員用浴場等に有効活用しています。

現在、犬山検車場、舞木定期検査場、豊明検車場の3検車場で太陽熱温水器を使用しており、今後、新設・改築予定の間内(まない)、新川、尾張旭の各検車場でも導入を予定しています。これらが完成すると導入検車場は12検車場中6検車場となります。

太陽熱温水器導入検車場

導入時期	検車場名
昭和 60年度	犬山検車場
平成 9年度	舞木定期検査場
平成 11年度	豊明検車場
平成 14年度(予定)	間内検車場
平成 15年度(予定)	新川検車場

(2) 氷蓄熱システムの導入

氷蓄熱システムはCO₂の発生量の少ない夜間電力を用いて氷をつくり、昼間その氷で空調を行うシステムで、名古屋市北区の上小田井電力指令所に導入されています。このほか、本年秋の開業に向けて建設工事を進めている新一宮駅ビル(仮称)にも導入を予定しており、今後導入が可能な事業所について順次設置を進めてまいります。

(3) 事務所内の不要照明の消灯

エネルギー節減のため、事務所では昼休み等に不要照明を消灯しています。特に、毎年夏と冬に「エコ・キャンペーン」を実施し、消灯の徹底を図っています。

その結果、主要69事業所の内、不要照明消灯の実施率(平成12年2月)は98%となっています。

2 廃棄物削減と管理

2 - 1 廃棄物の現状 (数量と処理・管理方法)

事業活動から排出される廃棄物量の全体を詳細に把握するのは極めて難しいのですが、おむね下表の様になります。出来る限り再利用、リサイクルに努めることはもちろん、使用そのものを減らしたり、再利用しやすい商品の購入をしていきます。

産業廃棄物の管理方法については、法に基づき、マニフェスト(伝票)等を発行しており、廃棄物が適正に処理されているかどうか管理をしています。

主要場所	排出量概算 (1日当たりt)	大分類	中分類	処理方法
駅 遊園地 など	約6.4t (駅 5t 遊園地1.4t)	可燃物 5.3t	新聞・雑誌類は回収箱 を有人駅の61%で設置 その他	リサイクル (順次拡大中) 廃棄物処理
		不燃物 1.1t	ビン・缶は発売施設全て に回収箱を設置 その他	リサイクル 廃棄物処理
事務所 (名鉄/スターホテル) (名鉄本社・ホテル メルサ等すべて含む)	約5.4t	可燃物 4t	紙類 1.1t	リサイクル
			生ゴミ他 2.9t	廃棄物処理
		不燃物 1.4t	ビン缶 0.6t	リサイクル
			発泡スチロール 0.3t プラスチック 0.1t その他 0.4t	リサイクル 廃棄物処理 廃棄物処理
主要廃棄物 (代表2部材)	(年間数量)	レール 約1,000t	再利用リサイクル	
		木クワギ 約5万本	産業廃棄物処理 一部売却	

(具体例)

平成11年度に美濃町線(一部区間)から発生した廃棄物及び処理方法

品目	発生量	処理方法	廃棄処理
レール	7 6km	・レールとして再使用 10% ・鉄原料として再利用 90%	・ゼロ
マクラギ	約5,000本	・マクラギに再使用 20% ・チップ化 5% ・園芸資材として売却 75%	・ゼロ
架線柱(木製)	183本	・再使用 2% ・板取村へ寄付 27%	・産業廃棄物処理 71%
架線柱 (コンクリート製)	51本	・再使用 43%	・産業廃棄物処理 57%
架線柱(鉄製)	6本		・産業廃棄物処理 100%
き電線	11 8km	・金属原料として売却 100%	・ゼロ

2-2 廃棄物削減対策

当社では廃棄物削減のため、事業活動で排出される使用済み乗車券や廃タイヤ、紙ごみなどを分別回収しリサイクルにまわすようにしています。

このほか、リサイクル品などの環境にやさしい商品を積極的に購入する「グリーン購入」を推進しており、廃棄物の削減に努めています。

(1) グリーン購入の推進

当社の資材調達部門(財務部資材担当)でみるとグリーン商品導入率は平成11年度実績で約2%ですが、平成13年度までに20%を目標にしています。

目 標
平成13年度のグリーン商品導入率を20%とする

グリーン購入(資材担当分)の実績および目標

	平成11年度	平成13年度計画
資材単価表内(大量購入商品リスト)のグリーン商品数	24 (全1120品目)	224 (+200) (全1120品目)
グリーン商品導入率	2%	20%
グリーン商品の例	・コピー用紙、フラットファイルなど	・帳票類、作業服、安全靴など

(2) 乗車券のリサイクル

当社では、使用済み乗車券をすべて焼却処分していましたが、平成8年9月、乗車券のリサイクルを開始しました。乗車券はトイレトペーパーや紙ファイル、名刺などにリサイクルされており、廃棄物の減量に努めています。

現在、使用済み乗車券のリサイクル率は42%(平成11年度実績)ですが、今後もリサイクル商品の使用範囲を拡大し、乗車券のリサイクル率向上に努めてまいります。

使用済み乗車券のリサイクル状況(平成11年度)

	処理方法	用途(乗車券混入率)
廃棄乗車券 (乗車券・PETカード)	リサイクル 46t (42%)	・紙ファイル(70%) ・名刺(40%) ・擬木(20%) ・封筒(40%) ・トイレトペーパー(10%)
		・リサイクルベンチ (試作 PETカード25%、乗車券25%)
年間 110t	焼却廃棄 64t (58%)	

PETカード:定期券

(3) バス廃タイヤのリサイクル

自動車営業所から年間3600本(約180トン)の使用済みタイヤが発生します。この使用済みタイヤのほとんどは、再びバスのタイヤ(更生タイヤ)にリサイクルされており、高速バスを除く路線バスの車両の後輪で使用しています。

また、一部の廃棄タイヤはセメント会社などで燃料として再利用(サーマルリサイクル)しています。

リサイクル率は93%(サーマルリサイクルを含む)

(4) PETリサイクル作業服・制服

当社ではPETボトル再生生地を利用した作業服・制服の導入を検討しております。今年の夏には駅勤務用の男性用開襟シャツ及び作業用ズボンの一部試験導入し、平成13年度の導入をめざします。

(5) オフィス古紙等の分別回収・リサイクル

主に名古屋市内の事務所を中心として、平成11年2月よりオフィス古紙を分別回収しリサイクルにまわすようにしています。

名鉄バスターミナルビル全体での紙資源の回収量の変化

実施前15トン → 実施後33トン
(平成11年2月) (平成12年2月)

鉄道駅では、平成12年4月現在、オフィス古紙の分別回収を有人駅181駅中71駅(約39%)で実施しています。各地の古紙受入れ業者の状況を見ながら、今後、実施駅を順次拡大してまいります。

(6) 生ごみ等のリサイクル

当社から排出される生ごみは、現在、廃棄物として業者を介して自治体により焼却処理をしています。

今後は、炭化・堆肥化・消滅化などの処理方法を検討し、生ごみ減量を進めてまいります。

また野外民俗博物館リトルワールド(犬山市)では、ヤシの実ジュースの販売によってヤシの実が年間約20トン発生し、すべて焼却処分していましたが、平成13年冬よりチップ加工し、堆肥やマルチング材(根を保護するもの)として試験的に使用し、廃棄物の減量を進めていく予定です。

(7)資源使用量の削減努力

紙使用の節減

紙使用量を削減するため、コピー紙等の両面利用、社内LANの活用(電子メール、電子掲示板、電子回覧・報告)に取り組んでいます。

具体例として、週1回発行の社報は、電子掲示板化したことにより印刷部数を約25%削減しています。

水資源の節約

雨水を有効利用するため、舞木定期検査場、犬山検査場、豊明検査場で雨水利用システムを設置しています。雨水は処理された後、車両の洗浄用水、職員用のトイレなどに利用されています。

このほか、現在建設中の新一宮駅ビル(平成12年秋開業予定)や新岐阜長住町ビル(平成12年秋開業予定)で雨水利用システムの導入を予定しています。

なお新一宮駅ビルでは雑用水のうちの2.4%(年間2,300トン)が節約できる見込です。

(8)その他

バス車内案内方式を音声合成化

当社ではバス自動案内放送はカセットテープを使用しており、平成11年度は年間約1万6千本の使用済みカセットテープが廃棄されました。

平成12年度から音声(IC記憶装置)に記憶させ放送する音声合成放送装置の導入を進めています。これにより、廃棄カセットテープが発生しなくなり、廃棄物の減量に大きく貢献できます。

平成12年度は380両、平成13年度は220両に導入を予定しています。

懐中電灯用乾電池の充電池化

夜間の線路保守作業等で使用する懐中電灯は、従来乾電池を使用していましたが、廃棄物削減のため平成11年度より中部土木管理区管内において、充電型電池へ切り換えを行いました。

平成12年度からは他の2管理区管内(東部土木管理区、西部土木管理区)においても充電池へ順次切り換えていく予定です。

乾電池の廃棄量 約85%減少

(使用済み充電池はリサイクルにまわす)

3 環境汚染物質

3-1 オゾン層破壊物質

エアコンや冷蔵庫の冷媒等に使用されているフロン(特定フロン・指定フロン・ハロン等)は、有害な紫外線から生命を守るオゾン層を破壊するといわれています。

当社では電車やバスの冷房、変電所の消火施設などにフロンを使用していますが、オゾン層を破壊しない代替フロン化、非フロン化を進めます。

バスでは平成5年以降の車両には代替フロンを使用しています。

鉄道では平成12年度の新造車両11両については、車両の仕様・技術等の理由により、やむをえず指定フロン車と致しましたが、平成13年度以降の新造車両より代替フロンに切り換えてまいります。

また変電所の消火設備については、設置が必要な3変電所のうち1変電所(堀田変電所)でCO₂消火設備(変電所内は無入)に変更済みです。今後、他の2箇所のハロン消火器は更新時にCO₂消火器に変更してまいります。

代替フロンの使用車両実績

	平成11年度
鉄 道	1137両中 18両 (導入率1.6%)
バ ス	794両中 278両 (導入率35.0%)

鉄道の母数は冷房車両(気動車を含み、モルレルを除く)

3-2 PCB

当社では現在、PCB(ポリ塩化ビフェニル)を含んだ機器は一切使用しておらず、過去に使用したものは、漏洩のないよう厳重に保管しております。(表参照)

今後、PCBの処理方法が確立され次第、無害化処理を進めてまいります。

PCBの保管場所・保管量について (平成12年3月末現在)

	場所	機器名	機器数
車両関連	舞木定期検査場(車両)	コンデンサー	26
	舞木定期検査場(車両以外)	コンデンサー	20
	新川検車区	コンデンサー	1
	岐阜研修区	コンデンサー	1
電気施設関連	山中変電所	コンデンサー	12
	枇杷島変電所	コンデンサー	24
	新一宮変電所	コンデンサー	12
	中部信号支区	コンデンサー	4

3-3 ダイオキシン類

ダイオキシンとは、焼却炉で塩素を含んだ物質を燃焼させたときに発生する化学物質です。

このダイオキシンはたとえ少量であっても人体に重大な影響があるといわれているため、当社では、駅などで使用していた小型の簡易焼却炉は平成11年4月に使用を停止いたしました。

大型焼却炉についてはダイオキシン類対策特別措置法に基づき、ダイオキシン類の測定を実施し、全て基準内であることを確認すると共に、使用の届出をしております。

焼却炉保有台数について

部 門	台数	場 所 (処理能力)	設置時期	ダイオキシン測定結果 (規制値)
駅	0			
車両	2	犬山検車場 (65kg/h)	H9.3	0.18ng-TEQ/Nm ³ (H11.9測定) (基準値 5ng-TEQ/Nm ³)
		豊明検車場 (25kg/h)	H11.3	1.9ng-TEQ/Nm ³ (H11.3測定) (基準値 5ng-TEQ/Nm ³)
電気	0			
土木	0			
文化事業	0			
バス	0			

3-4 その他

平成12年度新造車両3100系8両のシート詰物を従来のウレタン樹脂からポリエステル樹脂に切り替え、焼却処理時に排出される有害ガスの低減化を図りました。

4 自然環境保全

日本には約2,500万ヘクタールの森林がありますが、年間で2,700万トンの二酸化炭素を吸収するといわれています。これは日本の自家用車約4,500万台から排出される二酸化炭素の量に匹敵します。(「林業白書」より)

当社はこのような二酸化炭素吸収源、景観維持、災害防止等の面で森林整備が重要であると考え、三重県紀伊長島町及び南勢町の社有地(造林地)のうち約60ヘクタールを対象とし、そのうち、約40ヘクタールを平成13年度末までに整備する計画です。

この森林が整備されると年間約65トンの二酸化炭素(自家用車110台分)を吸収する計算となります。

5 鉄道の騒音対策

5-1 きしり音低減策

電車がカーブを曲がる時に発生する「キーキー」というきしり音を低減するため、防音車輪を使用しています。今後、騒音低減効果の高いものに順次切り換えてまいります。

防音車輪の導入実績及び計画

	平成11年度	平成12年度
全車両	1140両中 292両 (導入率26%)	1141両中 300両 (導入率26%)
(うち瀬戸線)	64両中 64両 (導入率100%)	72両中 72両 (導入率100%)

モノレール、気動車を除く

5-2 転動音低減策

転動音を低減するため、滑走防止装置ABS(アンチスキッドブレーキシステム)を導入しており、ブレーキ時に車輪が滑走することによって偏って削れないようにしています。

ABS装備車両 導入実績と計画

平成11年度	平成12年度
1140両中 290両 (導入率25%)	1141両中 298両 (導入率26%)

モノレール、気動車を除く

6 環境管理体制

平成11年10月、舞木定期検査場で環境保全に関する国際規格であるISO14001の認証取得に向けキックオフ大会を実施しました。

そして、本年6月19日に認証を取得しました。

ISO取得に向けて実施した設備投資

項目	金額(千円)
廃材置場改修工事等	6,980
備品類(緊急時対応)	1,500
合計	8,480

7 啓蒙活動

7-1 社外への環境啓蒙活動

日本モンキーパークでは、昨年5月より園内のケナフ園(約20m²)において環境体験イベント「環境にやさしい植物 ケナフ種まき会・紙すき会」を開催し、環境、自然の大切さをアピールしています。平成11年度は延べ約400名の方に参加いただきました。今後年間を通して環境イベントを企画してまいります。

また、南知多ビーチランドでは「海辺の観察会」「ウミガメ保護キャンペーン」などを実施しており、自然と親しみ、関心を持っていただくことで多くの方に自然保護や環境の大切さをお伝えしています。

さらに、自治体などが主催する環境イベントにも積極的に参加してまいります。

7-2 従業員への環境啓蒙活動

(1)名鉄エコ・クラブ

平成11年10月、当社従業員向けに「名鉄エコ・クラブ」を設立しました。

会員は個人の環境行動目標を書いたカード(エコ・クラブ会員証)を携帯しており、環境にやさしい行動に心掛けています。またエコ・クラブ会員を対象に環境関連イベントを実施し、より一層、環境意識の高揚を図っています。

(環境行動目標の例)

- ・私は3階以下の移動にはエレベータは使用せず、体力の続く限り階段を利用します。
- ・外出時には買い物袋(マイバッグ)を持参し、レジ袋をもらわないようにします。
- ・私はどの季節でもアイドリングは1分以内とし、燃料の削減に努めます。

(2)めいてつエコセミナーの実施

環境問題や環境関連法に関するセミナーを継続的に開催しています。

各回、100名の参加を得ております。

- ・平成11年1月 「名古屋市のゴミ処理の現状と課題」
名古屋市 環境事業部 減量推進室 主幹
- ・平成12年4月 「急速に強化される環境関連法のめざすもの」
愛知県 環境部 環境対策課 課長補佐

(3)めいてつエコ特別調査隊

従業員の環境意識の向上をめざして、見学会を開催しました。

- ・平成12年5月 大江破碎工場(参加者 30名)

(4)「エコ・キャンペーン(環境対策旬間)」の実施

従業員一人ひとりの環境意識の一層の高揚を図るため、平成11年度から夏・冬の年2回「エコ・キャンペーン」を全社的に実施しています。

この「エコ・キャンペーン」期間中は、各職場でゴミ減量、リサイクル、省エネルギーなどの重点実施項目を設定し、実施状況などの管理を行っています。

実施していない理由を確認して、出来るだけ実施率を高めていきます。

平成11年度 冬のエコ・キャンペーン重点実施項目 実施結果報告

(対象部署69)

	項 目	割合(%)	
			×
紙の 使用量削減	1 コピー機やプリンター用紙に使用済の用紙の裏面(いわゆる裏紙)を使用しますか?	94%	6%
	2 報告や伝達などを、紙ではなく、できるだけ電子メールを利用しますか?	86%	14%
グリーン 購入推進	3 部署の人すべてにグリーン購入の内容を伝えましたか?	86%	14%
	4 コピー機やプリンター用紙に100%再生紙を使っていますか?	72%	28%
	グリーン購入品: 洗剤、詰め替えのり、修正テープ、マジックインキ補充液、ファイル、プリンタートナー、ボールペンの芯、コピー用紙、名刺等		
紙の 分別回収	5 コピー紙など使用済み用紙をゴミとせずリサイクルにまわしていますか?	86%	14%
不要照明の 消灯等	7 消灯を呼びかける消灯責任者は既に決められていると思いますが、それ以外の人も消灯に協力していましたか?	98%	2%
	8 席を離れるときパソコンのディスプレイを閉じて電力を節減するよう徹底しましたか?	88%	12%

(5)情報発信

従業員の環境意識高揚のため、2つの情報媒体を使って情報を発信しています。

「エコレター」: 電子掲示板で環境関連の情報・トピックスを発信

「ECOの輪」: 社内報 れいめいの環境関連記事を隔月で掲載

今後の取り組みについて

(1) 社内外の啓蒙活動の積極的展開

地球環境問題の解決には、安易な近道とか王道といったものはなく、結局は一人ひとりの環境意識の高揚が最大の解決策であると考えます。

今後も、各自治体や市民団体との連携を重視し、環境改善活動に積極的に参加すると共に、社内での啓蒙活動も従来に増して積極的に展開していきます。

(2) ライフサイクルアセスメント思想の導入(対 新規建設施設)

今後、建設する施設には、出来るだけ設計段階から環境に配慮し、施工・運営・廃棄に至るまで、施設のライフ・サイクル・アセスメントの考え方を取り入れて、トータルで環境に配慮していきます。現在建設中の新一宮駅ビル(仮称)、名鉄長住町ビル(仮称)では設計段階から環境に配慮しており、省エネルギー、廃棄物削減に努めています。工事面では廃材利用や分別回収の徹底を実施しており、設備面では雨水処理設備やコージェネレーションシステムの導入を予定しています。

新一宮駅ビルにおける環境配慮の例

工 事	<ul style="list-style-type: none"> ・建設廃材の分別の徹底 ・高炉セメントなどの再生材の使用 ・無足場工法の採用 ・省エネ型重機の使用 など
設 備	<ul style="list-style-type: none"> ・コージェネレーションシステム ・氷蓄熱空調システム ・雨水利用システム など

(3) 環境にやさしいモデル路線(瀬戸線沿線)

当社では愛知万博のアクセスルートである瀬戸線を「環境にやさしいモデル路線」と位置付け、リサイクル品の利用や省エネルギーなど環境にやさしい施設づくりを推進してまいります。

(検討している環境対策)

- | | |
|-----------|------------------|
| ・太陽光発電 | ・リサイクル部材、商品の積極利用 |
| ・太陽熱温水器 | ・信号機のLED化 |
| ・雨水利用システム | ・沿線各駅に環境コーナーの設置 |
| ・センサー付き照明 | ・ゴミ箱の適正配置 など |

(4) グリーン購入、リサイクルの推進強化

グリーン購入の具体例として、ペットボトル再生生地を使った作業服・制服の導入を検討しています。今年の夏は駅勤務用の男性用開襟シャツ及び作業用ズボンの一部試験導入し、平成13年度の全面導入をめざします。さらに、様々な廃棄物のリサイクルも強力的に推進していきます。

会社概要

社名	名古屋鉄道株式会社 Nagoya Railroad Co.,Ltd.
創業	明治27年6月25日
設立	大正10年6月13日
本社所在地	名古屋市中村区名駅一丁目2番4号
資本金	743億5,700万円
代表者	代表取締役社長 木村 操
年間収入	1,370億9,900万円
従業員数	6,952人
事業内容	1. 鉄軌道事業 2. 自動車事業 3. 土地建物事業 4. その他事業(観光業、スポーツ業、 旅行業、航空代理業)

(平成12年3月31日現在)

名古屋鉄道株式会社
「アクション・エコ推進会議 事務局」
経営企画部内 TEL 052-581-9271



使用用紙

表紙/メイテツマット 110K

本文/メイテツマット 70K

(乗車券40%、牛乳パック40%、古紙20%で配合された古紙配合率100%の再生紙を使用しています)



環境に配慮した植物性大豆油インキを使用しています